

【原著】

# 高等学校における評価を活用した大学入学者選抜の国際比較

—GCE-A レベル・国際バカロレアを中心に—

永田純一，杉原敏彦，高地秀明（広島大学）

大学入学者選抜において、国（または州）全体の共通試験の得点と高等学校における学習の評価スコアをどのように組み合わせて活用するかは、国によって様々に異なっている。このうち、GCE-A レベル試験や国際バカロレアにおける DP 取得では、共通試験と高等学校における評価スコアとの比率が教科ごとに決められており、高等学校における学習が選抜資料として活用されている。その仕組みについて考察した結果を報告する。

## 1 はじめに

イギリス連邦諸国（オーストラリア，シンガポール，香港等）では、国（または州）全体の共通試験に加えて、高等学校における教科学習（グループ学習，個人研究等）の評価を一定の割合で、入学者選抜に活用している。このような方法は、アビトゥーア（ドイツ）やバカロレア（フランス）でも採用されている（荒井，2013；木戸，2008，2016）。また，我が国でも今後増加すると思われる国際バカロレア最終試験においても，高校（学校）における評価と外部評価者が作成した共通試験を組み合わせて最終的なディプロマ認定の可否を判断している。

2020 年度から予定されている「大学入学共通テスト」の実施及び国内における国際バカロレア実施校の増加を踏まえて，高校における学習やその他の活動の評価をどのように入学者選抜に活用するかを検討することは，大変重要なことである。本報告では，イギリスにおける GCE-A レベル，国際バカロレアにおける DP，及びイギリス連邦諸国（シンガポール，オーストラリア）における中等教育修了試験の場合のそれぞれについて，「高校における評価」と「外部評価者による評価」の関係について考察を行いたい。

## 2 内部評価（IA）と外部評価（EA）

高等学校における教科活動の評価を高校教員が評価する場合は，内部評価（Internal Assessment (IA) あるいは School-Based Assessment）と呼ばれている（Darling-Hammond, 2012 三宅 2014）。一方，高等学校における各科目の学習達成度を見るために，生徒が所属する高校の教員が作成するのではなく，学校外の第三者機関によって共通試験問題が作成され，さらに評価がなされることを，外部評価（External Assessment）と呼ぶ。我が国の大学入学者選抜の場合でいえば，調査書が内部評価に相当し，国公立大学

の場合，共通試験として各教科の学習到達度を測定する大学入試センター試験と各大学の個別試験が外部評価に相当する。現在，我が国では高大接続改革が行われているが，内部評価と外部評価を組み合わせてどのような大学入学者選抜を実施するかが課題の一つである，と考えられる。

## 3 GCE-A レベルの場合

GCE-A レベル試験は，修了資格としてディプロマが授与されるものではなく，評価はグレードにより教科ごとに行われる。複数の試験運営母体があることから，Uniform Mark Scheme (UMS)とよばれる共通したスコアへの換算がなされている。

現在の試験運営団体は，(1)AQA : Assessment and Qualifications Alliance, (2) OCR : Oxford, Cambridge and RSA Examinations, (3) Pearson Edexcel, (4) WJEC : Welsh Joint Education Committee, (5) CCEA : Council for the Curriculum, Examinations & Assessment である。

さて，GCE-A レベル試験は，現在，改革の只中で，一部の教科から改革がすすめられているが，全教科での完全実施は2017/18年度，さらに実際の大学入学者選抜に活用されるのは，その2年後の2019/20年度である（沖，2017，2014；山村，2016）。このうち，内部評価（Internal Assessment）として Course work の評価を最終成績に含めるこれまでのやり方が多くの教科で取りやめられることとなった。たとえば，「物理学(Physics)」では，実験の単元は高校の教師による内部評価がなされ全体の 10%の得点を占めていたが，これもすべて，外部評価に置き換わることとなる。このような変更は，GCE-A レベルの成績結果が，社会的に大変関心がもたれており，いわゆる成績のインフレーション等に関連した信頼性の問題が指摘され，政府が改革の指示を出す，といった背景もある

表 1 GCE-A レベルにおけるグレードの UCAS Tariff ポイントへの換算

グレード	Tariff ポイント
A*	56
A	48
B	40
C	32
D	24
E	16

表 2 国際バカロレアディプロマプログラムにおけるグレードの UCAS Tariff ポイントへの換算

グレード	Tariff ポイント
H7	56
H6	48
H5	32
H4	24
H3	12

表 3 Advanced Placement (AP)におけるグレードの UCAS Tariff ポイントへの換算

グレード	Tariff ポイント
5	28
4	24
3	20
2	16
1	12

(秦, 2014; 山村, 2016)。GCE-A レベルの成績が、それだけ社会的な影響が大きい表れと考えられる。

さて、イギリスでは、大学入学選抜は、UCAS (Universities and Colleges Admissions Service)<sup>2)</sup>によって、出願受付、選考結果通知が一括で行われており、極めて集中化がすすんでいる。UCAS は外国を含むさまざまな試験の結果を、単一のスコアである Tariff 得点に変換する作業も担っている(表 1, 2, 3)(UCAS, 2016; 花井, 2014, 2016)。たとえば、GCE-A レベルのグレードと、後述する国際バカロレアのグレードの双方を Tariff ポイントに変換することで、入学選抜における評価が極めてシンプルになる。この変換は、イギリス国内の大学入試にとどまらず、ヨ

ーロッパの他の国における試験成績も換算している。こういった変換作業は、Awarding Body Linkage(ABL)<sup>3)</sup>によってなされている。

現在の GCE-A レベル及び国際バカロレアの成績評価には、大きな割合ではないにしても、内部評価としてさまざまな評価項目が含まれている。UCAS Tariff のように、異なる試験結果を単一のスケールに変換する作業は、極めて慎重に行う必要があると考えられるが、ABL は国外の大学入試も含めた分析をもとに Tariff ポイントを算出している。総合的な評価としての holistic admission と呼ばれる視点と、UCAS Tariff のように単一化した評価による視点とを、どのように兼ね合わせるか、は大きな課題である。

一方、EU 圏内における国境を越えた大学進学や学生移動が極めて活発な現状においては、志願する側と選抜する側の双方において、単一化されたスコア表示は、よりわかりやすいシステムである。いわゆるボーロニャプロセスにおける学位システムの改革も含めて俯瞰すれば、UCAS Tariff は、EU 圏内の拡大する高等教育圏の大きな流れの一つとみなせるのではないであろうか。ただし、注意すべきは、イギリスの研究大学では UCAS Tariff を重視しない選抜が実施されている、という指摘がある(花井 2014, 2016)。この場合、高等教育へのアクセスが拡大し、進学率の上昇がもたらされた結果、選抜度の違いによって、UCAS Tariff が異なる役割を担っていることになる。

#### 4 国際バカロレア DP の場合

現在、我が国においては、日本語で国際バカロレアのディプロマプログラム修了資格取得が可能なプログラムの設置が、多くの高等学校等において計画されている。2017 年 3 月の段階では、国内に英語・日本語による DP 実施校が 31 校存在する。

多くの文献にもあるとおり、国際バカロレア教育プログラムでは、担当教員が授業の実施方法について多くの裁量を有している。統一した教科書は特に設定されておらず、教科担当教員個々が授業の計画を行い、教材を作成する。

一方、その評価方法については、あらかじめ「指導の手引き」等で評価の観点、グレードの決め方等が詳細に指定されている。これは、前述の内部評価 (Internal Assessment) においても同様である。

たとえば、『数学 HL の手引き』(IBO, 2015)によれば、外部評価 (External Assessment) は、IB 校の教員ではなく、外部の問題作成者が存在し、合計 5 時間の試験が課される。解答方式は、短答式、論述式

である。また、内部評価 (Internal Assessment) は、「数学探求(Mathematical Exploration)」と呼ばれる課題レポート作成であり、その評価基準(Criterion)は A~E の 5 項目 (A「コミュニケーション (Communication)」, B「数学的表現(Mathematical Presentation)」, C「主体的な取り組み (Personal Engagement)」, D「振り返り (Reflection)」, E「数学の活用(Use of Mathematics)」と規定されている。この手引きは日本語で記述されているが、他の言語の DP においても内容は同一である。さらに、各項目は 4~5 段階の到達度により評価される。たとえば、評価基準 C「主体的な取り組み」では 4~0 の 5 段階評価であり、最も高い到達度の 4 は「顕著な主体的な取り組みが豊富に認められる (There is abundant evidence of outstanding personal engagement.)」であり、以下、3「十分に主体的な取り組みが認められる (There is evidence of significant personal engagement.)」, 2「ある程度の主体的な取り組みが認められる (There is evidence of some personal engagement)」, 1「限定的または表面的な主体的な取り組みが認められる (There is evidence of limited or superficial personal engagement)」, 0「4~1 のいずれの水準にも達していない (The exploration does not reach the standard described by the descriptors below(4~1).)」としてその到達度が評価される。

さらに、内部評価においては、その前提として、IB の「学問的誠実性」に関する方針(academic honesty policy)に基づいて、教師が生徒に指導を行うことが明記されており、昨今、我が国の学部及び大学院教育において重要視されている研究倫理教育との継続性がみられる。

最終的な「数学 HL」全体の評価は、内部評価が 20%、外部評価が 80%の比重で決定されることになる。この比重値は、科目によって若干異なる。たとえば、「言語 A : 言語と文学」では内部評価 30%、外部評価 70% であり、「美術」では内部評価 40%、外部評価 60% となっている(表 4)。

さて、このように各 IB 校の科目担当教師により評価された内部評価の得点は、そのまま大学入学者選抜の評価資料である最終スコアとなるのだろうか。実際には、そうではなく、教師の得点をさらに評価する学校外のモデレーター(Moderator) が 3 段階で存在する。これは、実際の教師の得点の適性を再評価する Assistant Moderator, さらにその上位に Senior Moderator, そのさらに上位に Principal Moderator

表 4 国際バカロレア DP の最終評価における内部評価と外部評価の比率 (表の科目は全て HL: Higher Level) (IBO, 2014a-c, 2015a-d, 2016a-d)

	内部評価	外部評価
言語 A:言語と文学	30%	70%
言語 A:文学	30%	70%
歴史	20%	80%
経済	20%	80%
地理	20%	80%
数学	20%	80%
物理	20%	80%
化学	20%	80%
生物	20%	80%
音楽	50%	50%
美術	40%	60%

が位置する (IBO, 2010)。教師の採点結果の全てを審査するのではなく、ランダムに指定された結果を IBO に提出するようであるが、それでも全世界でみれば数万人 (数学では HL と SL の合計で延べ約 9 万人) のスコアが提出される中で、実際にどの程度の修正がなされているのであろうか。また、審査に要する時間はどの程度なのであろうか。この点に関する検討は、今後の課題としたい。

## 5 イギリス連邦諸国の場合

### 5.1 シンガポール

シンガポールの大学入学者選抜においては、Singapore-Cambridge GCE A-Level examination が重要な選抜評価指標の役割を持つ。例えば、表 5 は、2016/2017 学年暦における National University of Singapore (NUS)への合格者の成績分布をパーセントイルで示したものである。表中の成績は、左端の 3 つが Year12 で学ぶ H2 レベルの 3 科目、右端の 1 つが Year11 で学ぶ H1 レベルの 1 科目である。合格は A, B, C, D, E の 5 段階に区分されており、A は 70% 程度以上の得点である。

2002 年以降、新しいカリキュラムが導入され、Project Work と呼ばれる協働型の科目が追加され必修となった (Chong, 2008; Darling-Hammond, 2012; Koh 2014)。これは大学入試においてあまりにも知識偏重になりすぎた当時の状況を変える目的であったと、大学の入試課担当職員もインタビューに答

表 5 NUS における学士課程への合格者の成績分布<sup>4)</sup>  
(Singapore-Cambridge GCE A-Level)

コース	10 パーセンタイル	90 パーセンタイル
医学	AAA/A	AAA/A
歯学	AAA/A	AAA/A
看護学	BCC/C	AAA/B
工学	ABB/B	AAA/A
理学	ABB/C	AAA/A
人文・社会科学	ABB/B	AAA/A

えている（広島大学教育室秋季入学検討 WG, 2008）。

この Project Work は、入試得点の 10%とそれほど大きくはない割合だが（小川・石森, 2008）、大学入学者選抜の出願資料として必須となり<sup>5)</sup>、極めて厳密な評価が求められることとなった（Chong, 2008）。他の科目とは異なり、全得点を高等学校（Junior College）の教師が評価する School-Based assessment（内部評価）としたことから、評価結果の厳密性を確保するために、Moderation のシステムが導入されている。さらに、試験実施母体である SEAB（Singapore Examinations and Assessment Board）によって、その評価項目と基準が詳細に指定されている。高校教員に対しては、その評価能力の向上のための研修がなされている。

## 5.2 オーストラリア

これまでに我々が現地調査を行ったタスマニア州とニューサウスウェールズ州について、以下に示す。

### 5.2.1 タスマニア州

大学進学前の中等教育は、Senior High School の Year 11~12 の 2 年間であり、修了時に Tasmanian Certificate of Education (TCE) の資格取得を目指す。この TCE の成績が、現在、オーストラリアにおいて統一化がすすめられている大学入学成績ランク（ATAR: Australian Tertiary Admission Rank<sup>6)</sup>）に換算されて、大学入学者選抜が行われる。ATAR の用い方は、多くの大学において受験生の出願時の最低条件（cut-off 値）として用いており、人気のあるコースはその値が高くなる。なお、この ATAR は、スコアではなく成績のパーセンタイルのランク表示（0.05 刻み）であり、たとえば ATAR が 98.00 の場合には、成績上位の 2%であることを示す。

タスマニア州の場合、ATAR に換算される TCE の

スコアは、学校内の成績評価（内部評価、School-Based Assessment）と共通試験（外部評価）の合計で最終成績に反映される。それぞれの割合は 50%になっている。また、イギリスやシンガポール、あるいは国際バカロレアと同様に、内部評価に対する Moderation がなされ、コース間、学校間等で大きなばらつきがないか、検証がなされる<sup>7)</sup>。

### 5.2.2 ニューサウスウェールズ州

前述のタスマニア州と同様に、後期中等教育は Year11 と Year12 の 2 年間であり、Senior Curriculum と呼ばれている。修了資格は、Higher School Certificate (HSC) と呼ばれ、この成績が、やはり、ATAR に換算される。タスマニア州と同様に、学校内の成績評価（内部評価、School-Based Assessment）と共通試験（外部評価）の合計であり、その割合も同じ 50%ずつである。また、Moderation の仕組みもタスマニア州と同様である。

## 6 各国の制度の比較

これまでみてきたとおり、イギリスを中心とした諸国（イギリス連邦諸国）や国際バカロレア DP においては、概して、後期中等教育における修了試験（内部評価と外部評価の両方を含む最終評価）の成績が、大学入学者選抜における学力評価として大きな位置を占めている。したがって、国、州、あるいは全世界（国際バカロレア DP）において統一された外部試験に加えて、各高等学校の科目担当教員による内部評価が、科目による違いはあるものの、一定の割合で最終評価に含められている。

その一方、これらの国々では、少しずつその方向性が異なっているようである。高等学校の教科活動を評価する内部評価は、最新の GCE-A レベルの改革においては、極めて限定的な科目に絞られる。一方、国際バカロレアにおいては、前期中等教育(MYP: Middle Year Program)のみならず、大学入学者選抜の評価資料として用いられる後期中等教育 (DP: Diploma Program) の最終成績においても、内部評価が一定の寄与を保持している。また、DP の各科目を教える教師は、一定の評価基準、指導方針の規定はあるものの、授業自体の組み立てには多くの裁量を持っている。

また、オーストラリアにおいては、州ごとに後期中等教育の教育課程には違いがあるものの、現在、ATAR とよばれる相対的な成績ランクに統一化がすすめられている。各州の中等教育修了試験では、やはり内部評価が除外されているわけではなく、最終評価に

含まれている。さらにシンガポールでは、10 年程前から大学入学者に求める資質・能力として、「協働する力」を重視する動きがあり、Project Work と呼ばれる教科が新設され、現在も継続して大学入学者選抜のための評価資料として用いられている。

## 7 まとめ

2021 年度大学入学者選抜においては、学力 3 要素として規定された「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を評価項目として選抜がなされることになる。これは、我が国の AO 入試等についてしばしば指摘されている学力不問ではなく、高度な学力を求めつつ多様な資質・能力を求めるものである。

本報告でみてきたイギリス連邦の 3 か国と国際バカロレア DP においては、その比率は様々であるものの、高等学校教員による評価結果を選抜資料の一部に活用している。ただし、Moderation と呼ばれる教員以外の外部評価者による修正システムが存在し、高等学校教員の評価が、全く検証なく利用されるものではない。

我が国の大学入学者選抜制度において、今後、どのようなシステムを構築することで、学力 3 要素を適切に評価し、選抜資料として何が活用可能なのかを検討するために、本報告で分析した諸外国で運用されているシステムの利点と問題点を明確にすることは、大変意義のあることと考える。

## 謝辞

本研究は JSPS 科研費 17K04555 の助成を受けたものです。

## 注

- 1) “Get the facts: AS and A level reform”, Updated 31 March 2017  
<<https://www.gov.uk/government/publications/get-the-facts-gcse-and-a-level-reform/get-the-facts-as-and-a-level-reform>> (2017 年 4 月 20 日)
- 2) Universities and Colleges Admissions Service, “Undergraduate Courses At University And College | UCAS”  
<<https://www.ucas.com/>> (2017 年 4 月 20 日)
- 3) 「UCAS: the role of centralised admissions in the UK's higher education sector」Wilson, M. による講演スライド、『大学入試サミット 2017』, 大阪大学高等教育・入試研究開発センター, 2017

年 3 月 26 日, 豊中市。

- 4) Indicative Grade Profile (IGP), NUS  
<<http://www.nus.edu.sg/oam/gradeprofile/sprogramme-igp.html>> (2017 年 4 月 20 日)
- 5) 例えば, National University of Singapore の入学者選抜に関する Q&A  
<<http://www.nus.edu.sg/oam/specialprogrammefaq/sprogramme-faq.html>> (2017 年 4 月 20 日)
- 6) ATAR は成績分布のパーセンタイル値について、99.95 を最上位とした 0.05 刻みのランクに変換した値である（上位から 99.95, 99.90, 99.85 の順）。
- 7) “Internal Assessment”, Tasmanian Certificate of Education, Office of Tasmanian Assessment, Standards and Certification  
<<http://www.tasc.tas.gov.au/69607#IAS2>> (2017 年 4 月 20 日)

## 参考文献

- 荒井克弘 (2013). 「諸外国の大学入学制度」『第 10 回教育再生実行会議資料 1-1』, 平成 25 年 6 月 26 日。
- Chong, K. KK (2008). “Whither School-Based Coursework Assessment in Singapore?,” Paper presented at *The 35th International Association for Educational Assessment Conference*, Brisbane.
- Darling-Hammond, L.. (2012) “Policy Frameworks for New Assessments,” *Assessment and Teaching of 21st Century Skills*, Griffin, P., McGaw, B., and Care, E. (eds.), 301-339, Springer.
- 花井 渉 (2014). 「イギリスにおける大学入学者選抜制度の多様化・国際化—国際バカロレアの認証に着目して—」『九州教育学会研究紀要』**42**, 149-156.
- 花井 渉 (2016). 「イギリスにおける国際バカロレア認証に伴う資格試験制度変容に関する研究」『比較教育学研究』**52**, 90-112.
- 秦 由美子 (2014). 『イギリスの大学—対位線の転位による質的転換』, 東信堂.
- 広島大学教育室秋季入学検討 WG (2008). 「シンガポール (南洋工科大学, 在シンガポール日本大使館, シンガポール大学)」『広島大学における秋季入学制度に関する調査報告書』, 88-100.
- IBO (2010). *Diploma Programme assessment Principles and practice, 2004 (updated November 2010)*, International Baccalaureate Organization.  
<<http://www.ibo.org/contentassets/1cdf850e36644>

- 7e99b5a862aab622883/dpassessmentprinciplespractice2004en.pdf>
- IBO (2014a). 「経済」指導の手引き, 2013 年第 1 回試験, International Baccalaureate Organization. <<http://www.ibo.org/globalassets/publications/economics-guide-jp.pdf>> (2017 年 4 月 20 日)
- IBO (2014b). 「化学」指導の手引き, 2016 年第 1 回評価, International Baccalaureate Organization. <<http://www.ibo.org/globalassets/publications/chemistry-guide-jp.pdf>> (2017 年 4 月 20 日)
- IBO (2014c). 「生物」指導の手引き, 2016 年第 1 回評価, International Baccalaureate Organization. <<http://www.ibo.org/globalassets/publications/biology-guide-jp.pdf>> (2017 年 4 月 20 日)
- IBO (2015a). 「数学 HL」指導の手引き, 2014 年第 1 回試験, International Baccalaureate Organization. <<http://www.ibo.org/globalassets/publications/math-hl-guide-jp.pdf>> (2017 年 4 月 20 日)
- IBO (2015b). 「言語 A: 文学」指導の手引き, 2015 年第 1 回試験, International Baccalaureate Organization. <<http://www.ibo.org/globalassets/publications/dp-language-a-literature-jp.pdf>> (2017 年 4 月 20 日)
- IBO (2015c). 「地理」指導の手引き, 2011 年第 1 回試験 International Baccalaureate Organization. <<http://www.ibo.org/globalassets/publications/geography-guide-jp.pdf>> (2017 年 4 月 20 日)
- IBO (2015d). 「物理」指導の手引き, 2016 年第 1 回評価 International Baccalaureate Organization. <<http://www.ibo.org/globalassets/publications/physics-guide-jp.pdf>> (2017 年 4 月 20 日)
- IBO (2016a). 「言語 A: 言語と文学」指導の手引き, 2015 年第 1 回試験, International Baccalaureate Organization. <<http://www.ibo.org/contentassets/93f68f8b322141c9b113fb3e3fe11659/dp-language-literature-guide-jp.pdf>> (2017 年 4 月 20 日)
- IBO (2016b). 「歴史」指導の手引き, 2017 年第 1 回試験, International Baccalaureate Organization. <<http://www.ibo.org/globalassets/publications/history-guide-2017-jp.pdf>> (2017 年 4 月 20 日)
- IBO (2016c). 「音楽」指導の手引き, 2011 年第 1 回試験, International Baccalaureate Organization. <<http://www.ibo.org/contentassets/93f68f8b322141c9b113fb3e3fe11659/music-guide-jp.pdf>> (2017 年 4 月 20 日)
- IBO (2016d). 「美術」指導の手引き, 2016 年第 1 回試験, International Baccalaureate Organization. <<http://www.ibo.org/contentassets/93f68f8b322141c9b113fb3e3fe11659/visual-arts-guide-jp.pdf>> (2017 年 4 月 20 日)
- 木戸 裕 (2008). 「ドイツの大学入学法制-ギムナジウム上級段階の履修形態とアビトゥーア試験」『外国の立法』238, 21-46.
- 木戸 裕 (2016). 「ドイツの大学入学制度改革」『比較教育学研究』53, 14-27.
- Koh, K. (2014). "Authentic Assessment, Teacher Judgment and Moderation in a Context of High Accountability", *Designing Assessment for Quality Learning*, Wyatt-Smith, C., Klenowski, V., and Colbert, P.(eds.), 249-264.
- 三宅なほみ (監訳)(2014). 『21 世紀型スキル: 学びと評価の新たなかたち』(益川弘如 (訳), 望月俊男 (訳)), 北大路書房.
- OECD (2012). "What are the pathways and gateways to gain access to secondary and tertiary education?," *Education at a Glance 2012: OECD Indicators*, 520-534, OECD Publishing, Paris.
- 小川佳万・石森広美(2008). 「シンガポールのジュニアカレッジにおけるプロジェクトワーク指導と評価に焦点をあててー」『東北大学大学院教育学研究科研究年報』57, 381-394.
- 沖 清豪 (2014). 「イギリスの大学進学のための資格試験制度 — GCE 試験の現在、過去、未来」『大学ジャーナル』109, 14.
- 沖 清豪 (2017). 「英国における 2015 年 A-Level 試験改革について」『早稲田大学大学院文学研究科紀要』62, 87-98.
- UCAS (2016). UCAS Tariff Tables, New Tariff points for entry to higher education from 2017, updated for May 2016. <<https://www.ucas.com/file/63536/download?token=O6R3Gut4>> (2017 年 4 月 20 日)
- 山村 滋 (2016). 「イギリスにおける大学入学者選抜制度改革」『比較教育学研究』53, 3-13.